

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

一ツ橋中学校区	校番 12	福山市立引野小学校
最終更新日		2024年(令和6年)2月9日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	「学びに向かう力」「課題発見・解決力」「対話する力」「自己・他者理解力」「自己効力感」
めざす子ども像の実現に向け、主体的に学ぶ取り組みを確実に進めている。授業では教職員が熱意を持ち、工夫しながら全力で取り組んでいる。学校と地域とが連携した教育活動を共に進めていきたい。	「探究的な学習」の研究を校区で推進している。『とにかくやってみる』『本物・現実を見る』『自分事として考える』を視点に持った学びづくりにより、児童生徒が自ら探求する姿が見えるようになってきた。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身に付けている。
		中学校区として統一した取組等	小中合同の「自ら考え学ぶ授業」を実践するための研究授業を通して、全ての児童生徒が主体的に学ぶことができる学校をめざす。探究的な学習の充実に向け、小中で連携して、PBL(プロジェクト型学習)の考え方を参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元を開発・実践する。

III 自校

ミッション
「児童が主体となる学び」を教材・児童の変容から見直し、実感的な成果や成長を児童・職員が共有できる学校をつくる。

学校教育目標
心豊かでたくましく 自ら考えて行動できる子どもの育成

現状
<p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 全教育活動における課題発見・解決的な学び、自己や集団の成長を振り返る学びの充実により、自己有用感や自己肯定感が向上している。また、集団に入れない児童に対しては、校内委員会における多角的なアセスメントを進めて指導・助言しながら個々の児童の学びを決定させている。個別最適な学びを促し、不登校児童への対応を進めている。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 「問い」を起点とした授業づくりは広がりつつある。しかし、実を伴った学びにはつながっていない。その要因として、 「分かりやすく教えること」への依存や過干渉 放任とファシリテートの理解不足 単元を見通した軽重のある計画 等があげられる。今後、理論研修だけでなく、全教育活動を通して実践を通じた成果や児童の変容を共有し、教材研究を深める研修を取り入れながら、誰もが児童の成長や変容を実感する指導方法の改善に努めていく必要がある。 働き方改革を進めることが児童の「学びに向かう意欲」や「自己有用感」を育み、児童の笑顔が教師の「授業づくりを進める楽しさ」や「やりがい」につながる授業研究の推進が課題である。好循環を生み出すための学びと評価を一体化した授業研究と、教育の質の向上を進めていきたい。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	学びに向かう力	自己・他者理解力	
めざす子ども像	低学年	「問い」を見出し、進んで取り組んでいる。	課題を見つけ最後までやりきろうとしている。	自分や友達の良いところ気づいている。
	中学年	課題解決のための方法を考え、解決のスキルを活用して、主体的に解決している。	課題を見つけ、自分で決めたことを粘り強くやり遂げている。	自分や友達のよいところを見つけ、良さや成長を互いに認め合っている。
	高学年	課題解決のためのよりよい方法を考え、解決のスキルを活用して主体的に解決している。	課題を見つけ、様々なことに挑戦し、粘り強くやり遂げている。	互いの個性や成長を認め合い、学び合いを通して、自己有用感を高め挑戦しようとしている。

研究	テーマ	主体的に問いを見出し、探究活動を通して、資質能力の向上を図る
	内容等	児童が学びを「デザインする」探究的な授業づくり
めざす授業の姿	<p><子どもが、問い続け、学び続け、描き続ける授業づくり></p> <p>～「なぜ?」「どうして?」「やってみたいな」「伝えたいな」「描いてみよう」が生み出される学習方法の見直しと学びの過程の充実～</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが「なぜ?」「どうして?」と問い続け、探究する授業 子どもが「学びをデザインする」授業(「選ぶ」「発信・交流・改善する」授業) 子どもが「試してみたいな」「誰かに伝えたいな」と、わくわくして学びに向かう授業と教材の開発 子どもが自己の成長や変容を実感する授業 	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立引野小学校

年 目	中期経営目標	重点分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
						□指標に係る取組状況	70%評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期・中期経営目標の達成状況	70%評価	達成評価	総合評価	改善方策
5	自ら考え学ぶ授業の推進	★ 継続	探究学習を通して、児童が「やりたい」ことを基盤に単元計画を作り、資質・能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生活科、総合的な学習の時間を中心とした探究し続ける単元の計画、実践全学級実施 学びの質の向上を生み出す教材研究・研修(評価・改善)の定期的実施 物的(ICT)人的資源を活用した単元構成 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「おもしろい・成長を感じる」などの項目において肯定的評価80%以上 児童の自由記述をもとに、児童の姿容を研修内で交流(年間4回) 資質・能力の向上からIRT・各種学力調査・検定を通して前年度よりも全学年を向上させる教材と指導方法の改善 	□生活科、総合的な学習の時間がおもしろいという項目において、96%であった。 □1学期と2学期のアンケートの比較を行うため、1学期は実施していない。つきたい力を明確にした教材研究を進めた。 □全国学力学習状況調査では、国語算数ともに全国・県平均を越えている。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 1学期から2学期への生活科や総合的な学習の時間での姿容について交流を研修の中に取り入れ、学年ごとで改善や効果的だった手立てを考えていく。 2学期にある学力テストや校内検定へ向けて、指導と評価の一体化を目指し、教務部と連携しながら研修を行っていく。 	◎児童の「やりたい」から授業を考え実施することができた。 □生活科、総合的な学習の時間がおもしろい(94%) □児童が「やりたい」ことを単元の計画に取り入れ、意欲を高めた。 □3学期の校内検定・学力テストの実施に向け、復習を行った。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は探究学習を柱に各教科の授業で実践していく。教員同士で子供の声を取り入れた単元計画を作成していく。 全国学力学習状況調査の結果から、本校の課題を授業づくりの中に取り入れていく。
3	自己指導能力を育む教育活動の推進	継続	児童発によるHIKINO5と児童会行事を通して児童の自己指導能力と共感的人間関係を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 自分で・学級で決めて取り組むHIKINO5の定着 児童会を中心とした異年齢集団での活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 児童会・HIKINO5強7月歌や縦割りの遊びでの異学年交流を行う。 振り返りカード達成率80%以上 	□児童会を中心としてHIKINO5の取組を行った。学校全体としての達成率は90%だった。 □縦割り遊びは、1学期に計画をしていたが、天候のために中止となった。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 取組に対する児童会の意識を高め、学校全体に広めたことが効果があった。継続して取り組んでいく。 天候や行事などを考慮して、効果的な取組ができるように日程調整を計画的に行う。 	◎児童が主体的に学校生活をより良くしようと考え行動した。 □HIKINO5の取組について学校全体の達成率86%。 □縦割り遊びを2学期に実施。3学期には「6年生ありがと週間」で異学年と交流する。各学年が内容を計画している。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童会役員の公約と結び付け、HIKINO5の取組により児童のものづくり。 縦割り遊びだけでなく、児童会を中心にした取組を増やすことで、異学年交流の場を増やしていく。
3	子ども主体の健康・体力づくりの推進	継続	体力向上の自発的取り組みを通して、児童の意欲の向上と健康づくりを推進する	<ul style="list-style-type: none"> 運動を楽しむことを目的としたエンジョイ運動ウィークの開催 自発的な意欲の向上と体力づくりの成果(継続・目標達成)を定期的に検証・改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> エンジョイ運動ウィークの完全実施 体力向上ウィークにおける継続率80%以上。「楽しく運動できた」「運動に親しむことができた」 	□6年生を中心としたエンジョイ運動ウィークを実施できた。 □「楽しく運動できた」における肯定的な評価は85%であったが、継続率は学校全体で65%と目標を下回った。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き6年生を中心としたエンジョイ運動ウィークを実施し、運動を楽しむ習慣をつけさせる。 学校行事と重ならないようにエンジョイ運動ウィークの日程を調整する。また、児童一人一人に意識付けができるように担任で目標の共通理解を測る。 	◎児童が運動を楽しみたいと思えるようになってきている。 □6年生がエンジョイなわび運動ウィーク計画し実施した。 □「楽しく運動できた」は96%で目標を上回ったが、継続率は78%で目標達成までは至らなかった。	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き6年生が考えた運動ウィークを定期的に実施することで、児童が運動を心から楽しめるようになる。 児童を主体としながら様々な運動に触れる企画を計画する。
2	働き方改革の推進と教育の質の向上	継続	業務内容の精選と質の向上を生み出すカリキュラム・マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容の明確化と見直しを持った計画 教材研究・カリキュラム見直しの時間とDCAの確保 	<ul style="list-style-type: none"> 教師のアンケートの肯定的評価80%以上。(教材研究・児童の姿容) 勤務外時間月45未満 平均退校時刻18:15 	□教師の肯定的評価は「教材研究」75%、「児童の変化に応じた授業実践」94.9%。 □時間外勤務月45時間以上の職員1名。 □平均退校時間を守れている割合は65%。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、勤務時間内に教材研究時間を設け、学年間だけでなく、他学年な特別支援学級とも連携し、児童の学びを積み重ねられるようにする。 入退校時刻のセルフチェック月2回実施する。 	◎業務改善はまだ十分ではないが着実に改善してきた。 □毎週火曜日に教材研究の日を設定し、継続して授業づくりの時間を確保した。(肯定評価94.9%) □時間外勤務45時間以上の職員1名。 □平均退校時間を守れている95.4%	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 今後も学校行事の精選や教科横断的カリキュラムの実施などを行い、授業づくりを充実させる時間を確保する。 全職員が45時間以内を守れるよう思い切った業務改善を進める。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。